

雑司が谷旧宣教師館だより 第15号
2000年6月25日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館
〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎FAX(03)3985-4081

ブルーベリーを
摘みにきませんか！



当館の庭には大小合わせて30本ものブルーベリーの木があります。マッカーレブの時代は、グースベリーを植えていたということですが、マッカーレブは、当時日本ではまだ珍しかったグースベリーの実を摘んで、日曜学校の子どもたちに食べさせてくれたり、ジャムにして保存していました。

他にも、ジャガイモ、トウモロコシ、トマト等の野菜を栽培し、山羊や鶏を飼い、質素な自給自足の生活をしていました。行商人が物を売りに来ても買うこともなく、果ては自分で作った野菜を食べておなごをこわしたりしたので、近所の人達からは「ケチなマッカーレブ＝マツケチさん」とあだ名を付けられていたといひます。

(※当時、宣教師たちの生活は、主に母国の教会員たちの献金で賄われてました。マッカーレブも同様であり、時折学校や個人に英語を教えては臨時の収入を得る、苦しい生活を送っていました。)

これらの話は、現在は江東区にお住まいの安藤さんから伺いました。当時、隣に住んでいた安藤さんのお父さんは、マッカーレブに頼まれて畑仕事の手伝いをしていました。安藤さんのお話から、当時の宣教師館を取り巻く状況がよくわかります。

マッカーレブに困んだグースベリーは、現在3本植えてあります。開館時に、何故かブルーベリーが数多く植栽され、グースベリーをはるかに上回ってしまいました。

いにしへの、マッカーレブの努力の甲斐あって、土壌がいいのが、当館のブルーベリーは毎年たくさんの実をつけてくれます。しかも、時期を待っていたかのように、子どもたちの夏休みの始まり頃に色付き、完熟していきます。ブルーベリーの実を摘みにいらしゃいませんか。(申し訳ありませんが、区内在住者のみといたします。)

※詳細・右上図参照、広報としま7/5号でも募集

ブルーベリーの実を摘もう

期間	7月18日(火)・19日(水)・20日(木) 22日(土)・23日(日)・25日(火)・26日(水) 28日(金)・29日(土)・30日(日) 計 10日間
定員	一日につき2人 計 20人(区内在住者)
申込	往復はがき(一人一通)にて、希望日(第3希望まで)、住所、氏名、年齢、電話番号を記入してください
締切	7月11日(火) 必着
送り先	〒171-0032 雑司が谷1-25-5「豊島区立雑司が谷旧宣教師館」へ
※応募者多数の場合、希望日ごとに抽選	

最新寄贈書の紹介

当館では、随時マッカーレブに関したもので、雑司が谷文化関係、建築関係等の資料の受け入れを行っております。

今年度に入ってから、大変有意義な資料が相次いで寄贈されました。1件目は口レイン長井さん(未・

ロサンゼルス在住) から、マッカーレブの著作や大正から昭和にかけて、マッカーレブが実際に伝道活動に使用したと思われるパンフレット等です。

2件目は、高野志津子さん(横須賀市在住)から、1973年から1976年の月刊誌及び別冊『日本児童文学』合計48冊を寄贈していただきました。それぞれについて一部を紹介いたします。

【ロレイン長井さんより寄贈】

- ①『神を発見する工夫』賀川豊彦著、福音書館発行 昭和4年(1929年)
- ②『人生と宗教』植村正久述、日本基督教文協発行、大正5年(1916年)
- ③『道しるべ』ジェ・エム・マッカーレブ発行、昭和16年(1941年)他52点の書籍、写真等。

【高野志津子さんより寄贈】

月刊『日本児童文学』は各号に特集があります。例えば1973年は、「戦後の子ども・子ども像/200号記念」(5月)、「戦時下のアジアと児童文学」(9月)、1974年は「小川未明の再検討」(1月)「新美南吉の再検討」(2月)、「宮沢賢治の再検討1~3」(5~7月)「原爆児童文学」(8月)などで、他に別冊が『児童文学読本』『絵本』『現代児童文学作品論』『現代児童文学作家案内』など合計48冊です。事務検閲修室に置いてあります。※利用につきましては職員にお尋ねください。

来館者の声

◇内部を自由に見て歩け、ゆっくりできました。管理が大変でしょうが、今のように自由にずっと見られるとありがたいですね。(30代・男・茨城県本で見て、初めて。4/8)

♡私の生まれた大正7年に創刊された赤い鳥。その新しさと子どもに寄せる愛情の深さにとても感動した事でした。ありがとうございました。(70代・女・広島市。息子の嫁に聞いて、初めて。4/12)

♡資料も素晴らしい。ただ文化財保護という観点から子どもの遊び場と化している様子を拝見しまして心配です。入場料 50 ~ 100円を頂いて、見るほうもそれなりの気持ちが必要だと思います。(40代・女・区内。広報としまをみて、初めて。都電で。4/12)

※貴重なご意見有り難うございます。自由に出入りできる施設なので、皆さんに気持ち良く過ごして頂けるよう万金を尽しておりますが、今後はご指摘のように、訪れてくれる子どもたちと文化財について一緒に考えてまいります。

雑司が谷の周辺には、建築史的観点から重要と考えられる建築が数多く存在します。それは、時代的には桃山後期の客殿建築から現代の超高層ビルに至る幅広い時代に及び、また学校建築や洋風住宅、寺院、教会等多種のジャンルにわたっている点が特徴です。

特に大正から昭和の戦前に建てられた、いわゆる近代建築がいずれも現役で大切に使われている例が多く見られる事は、注目に値します。

初回は、不忍通りを挟んで南に位置する日本女子大学成瀬記念講堂を紹介いたします。

日本女子大学 成瀬記念講堂

山口県生まれの女子教育の先駆者、成瀬仁蔵(1858~1919)がわが国最初の女子大学として明治34(1901)年に創設した日本女子大学の講堂として、明治39(1906)年に竣工した建築。現在は、創立者を記念し成瀬の名を冠して保存されています。

創建当初は、大きな三角形の破風を正面と妻部に載せた中世風の美しい煉瓦壁の建築でしたが、関東大震災被災後の改修により外観は全く変わっています。ゴシック様式の教会堂風の内部空間は当時の雰囲気感を良く残しています。

MEMO

○日本女子大学(文京区白台2-8-1)構内には、昭和59年(1984)に成瀬記念館が建設され公開されています。●開館日/火曜日~土曜日(祝日を除く)●開館時間/am.9:30 ~ pm.4:30(土曜日は12:00終了)○成瀬記念館分館(成瀬仁蔵氏旧宅(1901年建))●見学は火曜日・金曜日 am.10:00~pm.4:00

◇お◇知◇ら◇せ◇

今秋、本館外壁塗装工事を実施します。見学者が多いシーズンですが、空気の乾燥具合がペンキを塗るのにいい時期だそうです。工事期間中は休館します。詳細が決まり次第お知らせします。

【編集後記】

念願のペンキ塗りが決まってほっとしています。建物の保存には、3年毎の塗り替えが望ましいらしいのですが、実に6年ぶりの実施となります。とてもうれしかった！良かった！です。(文責・浜地)